



産業建設

常任委員会

産業建設常任委員会に付託を受けた
議案について審査した結果、
主に下記内容が議論されました。

3月議会
付託議案

21件

- 委員長／木下 敬夫
- 副委員長／佐藤 喜典
- 委員／久保 吉彦、杉木 勉、垣内 武司、高僧 弘、今田 勇雄

かき殻利活用施設について

- 問** かき殻処理で今も野積みしてあると聞いたがどうなのか。
- 答** 関係者と現場を確認し、早急な対応をするよう指導した。しかし、身を剥いて直ぐに殻を出すことが難しいこともあり、今後もしっかりと指導を行っていく。
- 問** 施設運営に出資しているのは、業者の何割ほどか。また受け入れのチェックはしっかり行っているのか。
- 答** 出資している業者は約半数で、経営規模で見ると約8割ほど。残り2割ほどは小規模で未出資。なお、施設への受け入れ単価は、出資業者より未出資の業者の方が割高になる。受け入れチェックは、しっかりと行っており、今後も管理体制をしっかりと行っていく。

能越自動車道について

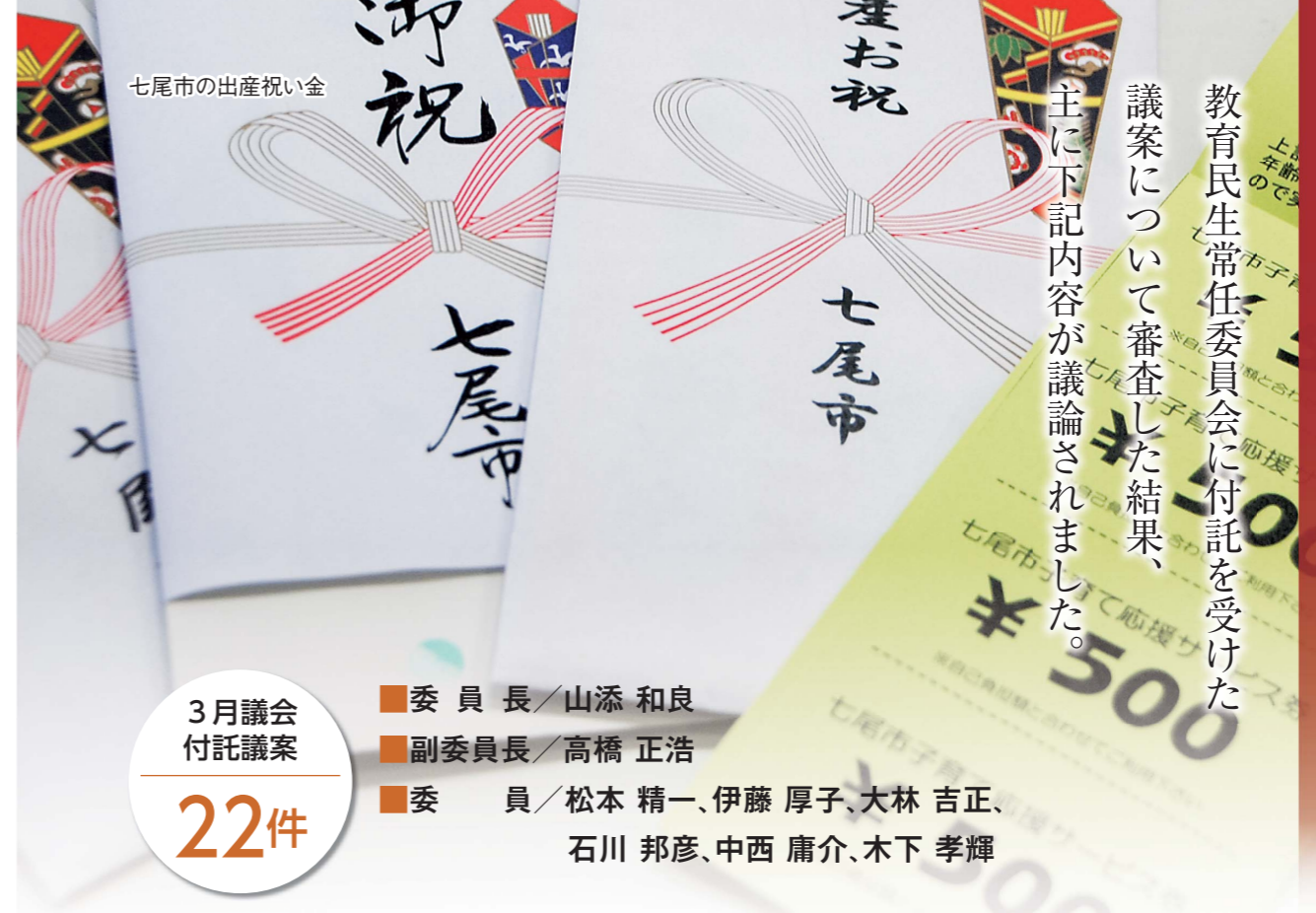
- 問** 能越自動車道七尾水見道路が完成したところだが、今後その先へと進む七尾～田鶴浜間の部分はどうなっているのか。
- 答** 先が見えていないのが現状。国としては、当面輪島方面の工事を優先的に行う。本市としては区間の早期着工へ向けて、粘り強く継続的に国への提言活動を今後も行っていく。
- 問** 能登有料道路(現：のと里山海道)建設時に七尾へ道路を通さなかったことで、七尾の交通事情は遅れを取った経緯がある。それを踏まえ、今回も遅れをとるようなことにならないよう努力してほしい。
- 答** 輪島方面など広域的な観光を考えれば、七尾～田鶴浜間はとても大事な道路で、必要不可欠な道路になる。そういうことを強く提言・要望して早期着工を目指していきたい。

プレミアム付き商品券等について

- 問** プレミアム付き商品券の販売方法など具体的な内容について説明せよ。
- 答** 正式にはまだ決まっていない部分もあるが次の通り予定している。七尾商工会議所と能登鹿北商工会で35,000セットを振り分けて販売。1,000円×12枚が10,000円となり、1人5セットまでとする。多子世帯は更に追加特典として1セット3,000円引となり1セット7,000円で、10セットまで購入可能。ただし、応募者多数の場合は、抽選となる。
- 問** プレミアム付き旅行券についてはどうなのか。
- 答** 旅行券1,050枚を七尾市で販売し、10,000円分が5,000円分になり、能登空港利用の往復バック利用で20,000円以上から適用になる。購入して2カ月以内での使用とする。詳しい内容はしっかりとチラシやホームページで周知を図っていく。

七尾フラワーパークについて

- 問** 施設内の食遊館について、利用料をなぜ設けたのか。
- 答** 現在、食遊館での食堂は廃止しているが、スペースはそのまま使うことができるため、貸し出しをする。利用にあたっては、例えば3～4人で使っているだけでは利用料を取らないが、全スペースを独占して借り上げたときには10,000円の利用料を徴収する。
- 問** 来場者に対して、利用料を知らせるときに誤解を招かないような対応にすべき。
- 答** 来場者にお知らせするときには、料金一覧表に注釈を付けて分かりやすく表示したものを提示して対応していく。



教育民生

常任委員会

教育民生常任委員会に付託を受けた
議案について審査した結果、
主に下記内容が議論されました。

3月議会
付託議案

22件

- 委員長／山添 和良
- 副委員長／高橋 正浩
- 委員／松本 精一、伊藤 厚子、大林 吉正、石川 邦彦、中西 庸介、木下 孝輝

出産祝い金について

- 問** この委員会では、2子、3子と突出した増額を要望していた。今回、一律2万円ということで、一定の努力は認められるが、どういう考え方で1万円を2万円にしたのか。
- 答** 出産へのインセンティブ(誘因)ではなく、あくまでお祝い金という考え方である。
- 問** 市内の30代のお母さん方は、経済的負担や、仕事上の関係もあって、3人目の出産を足踏みする人が多い。そこで市としても出産祝い金で後押ししてあげることが必要ではないか。
- 答** 子どもの一時預かりなど、出産後の保護者の負担が軽くなるようこちらも財源を手厚く配分している。今回の祝い金の増額についても努力を行ったところである。
- 問** 今後、2子、3子に対し、増額する計画はあるのか。
- 答** 現在のところ、明確に増額していくという計画はない。

学校給食センター新築事業について

- 問** 七尾中学校の給食規模はどれほどなのか。
- 答** 生徒、教職員で約550人規模を想定している。
- 問** 給食配送車は、何台で配送するのか。また、給食の冷めない時間は30分と聞くが大丈夫なのか。
- 答** 現在のところ、2台を考えている。配送する際は、二重の保温食缶で対応する。
- 問** 田鶴浜学校給食センターの整備後、もともと小丸山学校給食センターで調理するはずだった給食を田鶴浜学校給食センターで調理することなので、全体としてかなりの余力能力が出てくる計画になったということと理解してよいか。
- 答** 当面は、併設している小丸山小学校だけの給食となるが、今後、色々な流れの中で学校再編の動きがあったときに、小丸山学校給食センターを活用していく考えである。

いきいき高齢者健康づくり事業について

- 問** 高齢者グループデイについて、実施するのは何ヶ所なのか。
- 答** 活動場所と数について、公民館で3グループ、町会の集会所で2グループ、個人宅で1グループが実施している。
- 問** 当初立ち上げたメンバーやお世話をしていた方が高齢化している。この先が心配だが、何か対策はあるのか。
- 答** 現在、どのように持続していくのかについて、担当者がグループの方々と話し合いながら、進めている状況である。
- 問** 次年度からポイント制のボランティア事業が始まる。これは施設で活動すれば、ポイントがもらえるということだが、この事業とグループデイのお世話する方々と上手く絡ませる仕組みづくりはできないか、検討していただきたい。※要望のため答弁なし

公立能登総合病院修学資金事業について

- 問** 現在、修学資金を受けているのは何人いて、どこの学校に通学しているのか。
- 答** 修学資金を受けているのは、医師0人、看護師5人で、田鶴浜高等学校専攻科、七尾看護専門学校に通学している。
- 問** 修学資金によって病院の看護師確保のメリットと資金の支出面を考慮すると、何人ぐらいを予定しているのか。
- 答** 今後、優秀な人材を確保するために、田鶴浜高等学校、七尾看護専門学校、石川県立看護大学に各1名程度の枠を設けることを検討している。
- 問** 医師については、この地域出身者が就職してくれる可能性が高い。高校卒業時等に修学資金制度の周知を行えば、一層効果が上がると思う。
- 答** 県にも修学資金制度がある。病院だけの負担では厳しいものがあり、今後は行政とタイアップも考えながら取り組んでいきたい。